

県中体連60年のあゆみ

1 年 表

年 度	あ ゆ み
昭和 22 年	○学制改革により新制中学校が発足する。(5月)
昭和 23 年	○3市に体育主事を配置し、小学校、中学校の体育を指導する。 宮崎市体育課長 平松 敏雄 都城市体育主事 日高 一陽 延岡市体育主事 安食 豊 ○宮崎市中体連(6校)が体育課長「平松敏雄」氏の助言で発足。続いて宮崎郡中体連(11校)が結成される。
昭和 24 年	○都城市、延岡市を中心に中体連結成の動きが始まる。
昭和 25 年	○宮崎県中学校体育連盟連絡協議会が8地区中体連の加盟で結成発足する。 ○第1回宮崎県中学校ジュニアスポーツレクリエーション大会として、陸上競技を開催(各地区大会での成績をもちよっての通信制の大会であった) ○第1回宮崎県中学校ジュニアスポーツ大会として、陸上競技を共同野営方式で東京で開催 本県からも男女5名の中学生が参加する。 ○福岡県中体連から九州中体連結成の誘いがある。不参加
昭和 26 年	○第2回宮崎県中学校ジュニアスポーツレクリエーション大会を開催 (以下、ジュニアスポーツと略称) 種目＝陸上競技・軟式野球・バレーボール(男女)・水泳(男女) バスケットボール(男女)、サッカー (軟式野球は4ブロック、4チーム～1日で終了)
昭和 27 年	○宮崎県中学校体育連盟連絡協議会を宮崎県中学校体育連盟と改称 (以下、県中体連と略称) ○第3回ジュニアスポーツ大会より体操競技(男女)を実施 ○九州地区中体連連絡協議会を宮崎市で開催。宮崎県中体連も加盟する。
昭和 28 年	○第4回ジュニアスポーツ大会より体操競技(団体の部)を実施 ○第1回冬季ジュニアスポーツ大会を開催 種目＝バスケットボール・サッカー ○軟式野球を各中体連より1チームの参加とする。
昭和 29 年	○県内中学生バレーボール大会を延岡市で開催する。1回で中止となる。 ○保健体育科教科書として、講談社版「中学生の体育」が使用されはじめる。
昭和 30 年	○第6回ジュニアスポーツ大会夏季大会にテニス(女子)、駅伝競走大会を冬季大会で実施 ○全国中学校体育連盟が結成され、会長は全国中学校長会長が兼務となる。 ○第1回全日本中学校放送陸上競技大会、第1回全国中学校水泳競技大会が開催される。
昭和 31 年	○大修館発行「中学の体育」を県中体連編として発行するため、編集会議が発足する。(県教委主作) ○第7回ジュニアスポーツ大会は延岡市で開催される。
昭和 32 年	○第8回ジュニアスポーツ大会冬季大会に卓球(男女)、柔道(男子)を実施 ○大修館発行「中学の体育」を県中体連編として全学校で採択する。
昭和 33 年	○ジュニアスポーツ大会より軟式野球が独立し、第1回宮崎県中学校野球大会を県営球場で開催する。(宮崎日日新聞・宮崎交通が共催となる) ○第9回ジュニアスポーツ大会夏季大会に剣道(男子)、ソフトボール(女子)を実施 ○浜砂昭光(穂北中)100m背泳で全日本中学新記録(1分13秒1)を出す。
昭和 34 年	○第1回宮崎県中学校保健体育研究発表大会を開催(県教委主管)

年 度	あ ゆ み
昭和 35 年	<ul style="list-style-type: none"> ○県中体連の組織改革を行い、競技部と研究部の二本柱とし、研究活動を強化。 ○西臼杵中体連より野球競技が初出場。15地区中体連から15チームが出場する。 ○県教委保健体育課の指導（管理・運営）下から、自主運営の県中体連として再発足 ○第2回学校体育研究大会を開催する。毎年開催となる。
昭和 36 年	<ul style="list-style-type: none"> ○学習研究社（学研）発行「中学体育実技」を県版として発行。全中学校で採用。 ○「宮崎県ジュニアスポーツレクリエーション大会」を「宮崎県ジュニア大会」と改称 ○中学生の水泳競技育成強化のため、中体連水泳指導者を熊本県の知名校に訪問研修させる。 ○県中体連の規約を改正する。研究部長を副理事長とする。 ○第1回九州各県対抗中学生水泳競技大会を北九州八幡桃山プールで開催（西日本新聞社共催）
昭和 37 年	<ul style="list-style-type: none"> ○県中体連機関誌「会報第1号」発刊する。 ○東臼杵郡中体連が東臼杵北部中体連と東臼杵南部中体連に分離し、16地区中体連となる。 ○学習研究社（学研）版「スポーツルール」を県中体連が推薦し、全中学校で採用 ○教育研究団体「中学校保健体育部会」を研究部が代行し、部会長は県中体連会長が兼務することを県教委が了承する。 ○「生徒の対外競技基準」が文部省次官通達として公布される。
昭和 38 年	<ul style="list-style-type: none"> ○県中体連事務局が宮崎市中体連より分離し、宮崎市中体連が兼務した県中体連会長・理事長・書記・会計が独立した事務局となる。 ○県中体連表彰規程を制定 ○県中体連理事会を毎年1回地区中体連持ち回りで開催する。第1回は西臼杵中体連（高千穂） ○第13回ジュニア大会夏季大会より「弓道男子」を実施
昭和 39 年	<ul style="list-style-type: none"> ○第14回ジュニア大会夏季大会に「弓道女子」を実施、「卓球」を冬季大会から夏季大会に移す。 ○研究部会で高校入試保健体育テスト対策として「中学保健体育の学習」を自主編集し、学研より全国版として発行 ○県中体連の理事長・副理事長の授業時数の削減と補充教諭の派遣方を県教委に請願する。 ○都城市政40周年記念行事として、宮崎県中学校野球大会を都城市で開催 ○高田康雄（岡富中）が100m・200mバタフライで全日本中学新記録を出す。 ○第4回九州各県対抗中学水泳大会を県立大宮高校プールで開催
昭和 40 年	<ul style="list-style-type: none"> ○第15回ジュニア大会夏季大会より「相撲」を実施 ○第1回南九州隣接県スポーツ大会を宮崎市で開催（宮崎・大分・鹿児島・沖縄） 種目＝バレーボール（男女）・剣道（男子）・柔道（男子） （第2回大会よりバスケットボール男女を追加する）
昭和 41 年	<ul style="list-style-type: none"> ○研究部が「研究収録第1集」を発行し、以降毎年発行する。 ○九州中体連会長に田中秀男、理事長に外山頼夫が就任 ○九州中体連規約を新しく制定
昭和 42 年	<ul style="list-style-type: none"> ○バスケットボール競技を冬季大会より夏季大会に移す。 ○宮崎県中学校野球大会10周年記念大会を開催、次年度より中止、ジュニア大会として開催するようになる。
昭和 43 年	<ul style="list-style-type: none"> ○宮崎県中学校ジュニア大会を宮崎県中学校体育大会（夏季大会・冬季大会）と改称
昭和 44 年	<ul style="list-style-type: none"> ○県中体連発足20周年記念式典を宮崎県知事の臨席を得て、県体育館で8月5日に開催する。（宮崎県中学校体育大会の開会式と同時開催） ○「児童・生徒の運動競技について」の文部省次官通達が公布され、中学生の運動競技大会の基準が定められる。

年 度	あ ゆ み
昭和 45 年	<p>○社会体育として、各競技団体が主催する全国大会が開催されるようになる。</p> <p>・第1回全国ジュニア陸上競技大会、全国サッカー大会、全国中学生柔道大会、中学生卓球選手権大会（九州中学生軟式庭球大会、九州中学生6人制バレーボール大会）</p>
昭和 46 年	<p>○えびの市中体連が西諸中体連より分離独立する。県下17地区中体連となる。</p> <p>○県中体連規約が一部改正される。</p> <p>○県教委が学校体育振興指導教員制度を制定し、県中体連理事長ほか4名が任命される。（授業時間の削減）</p> <p>○中学生の全国・九州大会が開催され、学校教育と社会体育との関係により、学校現場が混乱する。</p> <p>・第1回全日本中学生バレーボール選手権大会、中学生相撲選手権大会、選抜剣道優勝大会、バスケットボール優勝大会、第1回九州中学生卓球選手権大会、九州中学生剣道大会、九州中学生バスケットボール選抜大会、九州中学生軟式庭球大会。</p> <p>○テニス競技を庭球競技に改称</p>
昭和 47 年	<p>○県中学生体育大会夏季大会に剣道（女子）を実施</p> <p>○第11回九州地区体育研究大会を宮崎市で開催</p> <p>○中学生の全国・九州大会に下記競技が開催される。</p> <p>・全日本少年少女軟式庭球選手権大会、九州中学生クラブサッカー大会</p>
昭和 48 年	<p>○庭球競技を軟式庭球競技に改称</p> <p>○中学生の九州大会が開催されるのに伴い、中体連主催の九州南北ブロックの隣接県大会を発展的に解散し、九州大会として統合する。</p>
昭和 49 年	<p>○学校体育研究大会の開催地を5年後まで内定し、事前に研究大会の準備や研究推進ができるようになる。</p> <p>○宮崎県中学校体育大会の主競技会場を宮崎県総合運動公園に移す。</p> <p>○中学生の全国・九州各競技大会の開催により、学校体育・部活動の混乱防止、正常化のため、各競技団体独自の大会を全国・九州中体連と共催して教育的な大会運営となるように要望書を宮崎県中学校体育連盟が本部に提出。（後に実現する。）</p>
昭和 50 年	<p>○「日本のふるさと宮崎国体」の成功を期し、県中体連で中学生の競技力向上を図る決議案を全国中体連が採択する。</p> <p>○全国中学生陸上競技大会に本県中学生が29名選抜され、6位入賞者数で全国1位となる。</p>
昭和 51 年	<p>○県中学校体育大会にハンドボール競技（男女）と新体操競技を実施</p> <p>○「日本のふるさと宮崎国体」選手強化のため、中学生の各種目毎のスポーツ教室と指導者育成を県教委と合同で実施する。</p> <p>「日本のふるさと宮崎国体」開会式での中学生演技内容の検討が始まる。</p>
昭和 52 年	<p>○第1回宮崎県中学校体育大会春季大会を開催（昭和55年度まで）</p> <p>○第1回宮崎県中学校体育大会秋季大会を開催</p> <p>○第1回宮崎県中学校合同練習会を開催</p> <p>○競技部に種目毎の専門部を設置し、規格・運営の充実を図るために、専門部細則を定める。</p> <p>○県中体連事務局を設置し、大淀中学校に事務局を置く。事務局員は体育振興指導教員となる。</p> <p>○県中学校体育大会にバドミントン競技（男女）を実施</p> <p>○清水重臣（宮崎西中）が走幅跳で全国中学記録（7 m13）を出す。</p>
昭和 53 年	<p>○宮崎県中学校駅伝競走大会のコースが「西都原周回コース」から「公認西都マラソンコース」に変更</p>

年 度	あ ゆ み
昭和 54 年	<ul style="list-style-type: none"> ○全国中学校体育連盟評議員会が宮崎市で開催される。 ○宮崎県中学校体育連盟創立30周年記念式典開催，30周年記念誌発行 <ul style="list-style-type: none"> ・30周年記念表彰69名を表彰 ○宮崎国体に集団演技として中学生が出場する。
昭和 56 年	<ul style="list-style-type: none"> ○県中学校駅伝区間変更「9区間27km」→「7区間22km」 ○第20回九州地区学校体育研究発表大会開催（宮崎市） ○第1回九州中学校駅伝競走大会開催（福岡市） ○夏季大会の参加枠が宮崎市2となる。 ○男子ソフトボールを奨励種目として実施する。
昭和 58 年	<ul style="list-style-type: none"> ○2回目の九州中学校体育連盟事務局となる。 <ul style="list-style-type: none"> ・会長 竹井 睦雄 理事長 村中 晴朗
昭和 59 年	<ul style="list-style-type: none"> ○九州中学校体育連盟事務局 会長 山野 練太郎 理事長 村中 晴朗 ○宮崎県中学校体育大会夏季大会報告書発行する。（第1号） ○油津中学校女子剣道部が全国制覇する。
昭和 51 年	<ul style="list-style-type: none"> ○宮崎県中学校体育大会夏季・秋季大会報告書を発行する。（現在の形式となる） ○県中学校駅伝の区間を変更する。「7区間22km」→「8区間30km」
昭和 63 年	<ul style="list-style-type: none"> ○「部活動（運動部）運営のしおり」発行 県下中学校に配付 ○第5回日本中学校体育連盟研究大会（福井）にて部活動運営について発表 ○第39回宮崎県中学校体育大会柔道競技に女子の部を新設 ○第1回宮崎県中学校女子駅伝競技大会開催 ○第8回九州中学校駅伝競走大会（福岡県）にて，吾田中が優勝，高崎中が準優勝に輝く。（テレビ放映開始） ○全国中学校選抜体育大会にて高千穂中学校男子剣道部が全国制覇 ○第27回九州地区学校体育研究発表大会開催（宮崎市） ○高千穂中男子剣道部全国制覇
平成 元年	<ul style="list-style-type: none"> ○宮崎県中学校体育連盟創立40周年記念式典開催（12月2日）（ホテルプラザ宮崎にて） <ul style="list-style-type: none"> ・40周年記念表彰 団体2校，個人57名を表彰
平成 3 年	<ul style="list-style-type: none"> ○全国中学校選抜体育大会4競技を本県開催 <ul style="list-style-type: none"> 「燃えよ太陽 燃えよ闘志 今，日向路にはじけあう」 ・第18回全日本中学校陸上競技選手権大会（宮崎市） ・第21回全日本中学校バレーボール選手権大会（都城市） ・第13回全国中学校ソフトボール大会（日向市） ・第22回全国中学校軟式庭球大会（宮崎市）
平成 4 年	<ul style="list-style-type: none"> ○軟式庭球競技をソフトテニス競技と改称
平成 5 年	<ul style="list-style-type: none"> ○宮崎県中学校体育大会夏季大会を宮崎県中学校総合体育大会に改称
平成 6 年	<ul style="list-style-type: none"> ○台風7号の襲来により総合体育大会の総合開会式を中止し，大会を2日間延期した。
平成 7 年	<ul style="list-style-type: none"> ○高千穂中女子剣道部全国制覇
平成 8 年	<ul style="list-style-type: none"> ○第35回九州地区学校体育研究発表会本県開催（宮崎市） ○宮崎県中学校体育連盟「競技力向上検討委員会」を設置
平成 9 年	<ul style="list-style-type: none"> ○第15回（財）日本中学校体育連盟研究発表大会にて発表 ○新競技種目実施申し合わせ事項を再設定 ○「運動部活動指導マニュアル」を発行 県下中学校に配付

年 度	あ ゆ み
平成 10 年	<ul style="list-style-type: none"> ○運動部活動外部指導者申請方法の改善により、外部指導者の数が倍増（119名） ・外部指導者研修会開始（受講者にベンチ入り許可証配付） ○県武道館完成
平成 11 年	<ul style="list-style-type: none"> ○九州中体連事務局 会長 富高 肇 理事長 木下 理 ○総合・秋季大会において県武道館を使用（柔道・弓道） ○ジュニア・ラグビー準専門部の設置 ○ジュニア・ラグビー競技が開催競技となる。 ○宮崎県中学校体育連盟創立50周年記念事業の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・50周年記念大会の開催（総合大会において各種目の最多優勝校の表彰） ・50周年記念式典，記念祝賀会の開催（2月5日：ホテルプラザ宮崎にて） ・50周年記念表彰 83名を表彰 ・50周年記念誌発行 ○「運動部活動ハンドブック」を発行 県下中学校に配付 ○東海中「松田丈志」全国大会2種目制覇（水泳400M・1500M自由形） ○旭中「宗由香利」全国大会2種目制覇（陸上800M・1500M）
平成 12 年	<ul style="list-style-type: none"> ○開催基準「参加資格：クラブ活動に所属していること」を削除 ○全国中学校体育大会2競技を本県開催 <ul style="list-style-type: none"> 「翔べ！若人たちの夢と情熱 今 九州の地に」 ・第31回全国中学校卓球競技大会（宮崎市） ・第22回全国中学校ソフトボール大会（日向市） ○高原中「大東正彦」柔道男子73kg級全国制覇 ○宮崎東中「石井さやか」柔道女子63kg級全国制覇
平成 13 年	<ul style="list-style-type: none"> ○門川中「菊池愛力」剣道女子全国制覇
平成 15 年	<ul style="list-style-type: none"> ○複数校合同チーム編成規定を制定、総合体育大会より実施 ○テニス競技準専門部の設置 ○テニス競技が開催競技となる。 ○空手道競技準専門部の設置 ○空手道競技が開催競技となる。 ○大王谷中学校男子剣道部全国制覇 ○沖水中「鹿島鉄平・吉川良輔」組ソフトテニス男子全国制覇
平成 16 年	<ul style="list-style-type: none"> ○宮崎第一中「田中浩平」柔道男子60kg級全国制覇 ○五十市中「川崎友香」柔道女子48kg級全国制覇
平成 17 年	<ul style="list-style-type: none"> ○広瀬中「菊川優希」柔道女子63kg級全国制覇
平成 18 年	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村合併に伴い県下17地区から9地区に再編成 ○参加登録において二重登録を認める。（相撲・駅伝競走） ○スポーツ指導者優秀賞に外部指導者も対象とする。 ○24回（財）日本中学校体育連盟研究発表大会にて発表 ○日章学園中学校サッカー部全国制覇 ○三股中「大坪学嗣」剣道男子全国制覇
平成 19 年	<ul style="list-style-type: none"> ○日章学園中学校サッカー部全国大会2連覇 ○三股中学校男子剣道部全国制覇 ○三股中「巢立美樹」陸上女子800m全国制覇

年 度	あ ゆ み
平成 21 年	<ul style="list-style-type: none"> ○全国中学校体育大会 2 競技を本県開催 「夢を追い 九州で輝く 華となれ」 ・第40回全国中学校ソフトテニス大会（宮崎市） ・第38回全国中学校ハンドボール大会（宮崎市）
平成 22 年	<ul style="list-style-type: none"> ○口蹄疫により総合体育大会の総合開会式を中止 ○総合体育大会において参加料を徴収 ○宮崎県中学校体育連盟創立60周年記念事業の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・60周年記念式典、記念祝賀会の開催（2月26日：ホテルスカイタワーにて） ・60周年記念表彰 69名を表彰 ・60周年記念誌発行 ○「運動部活動ハンドブック」リニューアル版発行予定 県下中学校に配布予定

2 大会名称の変遷

年 度	大 会 名
昭和 25 年	第 1 回宮崎県ジュニアスポーツレクリエーション大会開催
昭和 28 年	第 1 回宮崎県冬季ジュニアスポーツレクリエーション大会開催
昭和 33 年	軟式野球が独立「第 1 回宮崎県中学校野球大会」開催（昭和43年に再び統合）
昭和 36 年	大会名を「宮崎県ジュニア大会」の改称
昭和 43 年	大会名を「宮崎県中学校体育大会（夏季大会・冬季大会）」に改称
昭和 52 年	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回宮崎県中学校体育大会春季大会開催（昭和55年まで） 第 1 回宮崎県中学校体育大会秋季大会開催
平成 4 年	夏季大会を宮崎県中学校総合体育大会と改称（現在に至る）

3 各競技の導入年度

昭和 25 年	陸上競技
昭和 26 年	軟式野球, バレーボール (男女), 水泳 (男女), バスケットボール (男女), サッカー, テニス (男子)
昭和 27 年	器械体操 (男女)
昭和 28 年	一般体操 (団体)
昭和 30 年	テニス (女子), 冬季大会種目として駅伝競走
昭和 32 年	冬季大会種目として卓球 (男女), 柔道 (男子)
昭和 33 年	剣道 (男子), ソフトボール (女子), 軟式野球大会が独立
昭和 38 年	弓道男子
昭和 39 年	弓道女子
昭和 40 年	相撲
昭和 46 年	「テニス」を「庭球」に改称
昭和 47 年	剣道 (女子)
昭和 48 年	「庭球」を「軟式庭球」に改称
昭和 51 年	ハンドボール (男女), 新体操 (男女)
昭和 52 年	バドミントン (男女)
昭和 56 年	ソフトボール (男子)
平成 4 年	「軟式庭球」を「ソフトテニス」に改称
平成 11 年	ジュニア・ラグビー
平成 15 年	テニス・空手道 (現在に至る: 20競技)

4 研究部のあゆみ

昭和 29 年	保健体育科教科書「中学校の体育」講談社版が使用され始める。
昭和 31 年	大修館発行「中学の体育」を県中体連編として発行するために編集会議が発足する。 (県教育委員会主作)
昭和 32 年	大修館発行「中学校の体育」を県中体連編として県下各学校で採択
昭和 34 年	第 1 回宮崎県中学校保健体育研究発表大会開催 (県教育委員会主管)
昭和 35 年	組織改革を行い, 競技部と研究部の 2 本柱とする。
昭和 36 年	規約改正を行い, 研究部長を副理事長とする。 「中学校体育実技」を県版として編集
昭和 37 年	教育研究団体「中学校保健体育部会」を研究部が代行
昭和 39 年	高校入試対策として「保健体育の学習」を自主編集
昭和 41 年	研究部が「研究集録第 1 集」を発行 (現在第 34 集)
昭和 47 年	第 11 回九州地区体育研究大会を宮崎市で開催
昭和 51 年	第 20 回九州地区学校体育研究発表大会を宮崎市で開催
昭和 63 年	第 27 回九州地区学校体育研究発表大会を宮崎市で開催
平成 8 年	第 35 回九州地区学校体育研究発表大会を宮崎市で開催
平成 13 年	第 40 回全国学校体育研究大会を宮崎市で開催
平成 24 年	第 51 回九州地区学校体育研究発表大会を宮崎市で開催予定